

今シーズンの発生の特徴と今後の発生予防対策

令和 7 年12月23日

令和 7 年度鳥インフルエンザ防疫対策緊急全国会議

農 林 水 産 省

消費・安全局 動物衛生課

- 今シーズンの発生の状況
- 発生農場で認められた所見・特徴
- 今後の発生予防対策（家きん小委・HPAI疫学調査チーム検討会合同会合での提言）

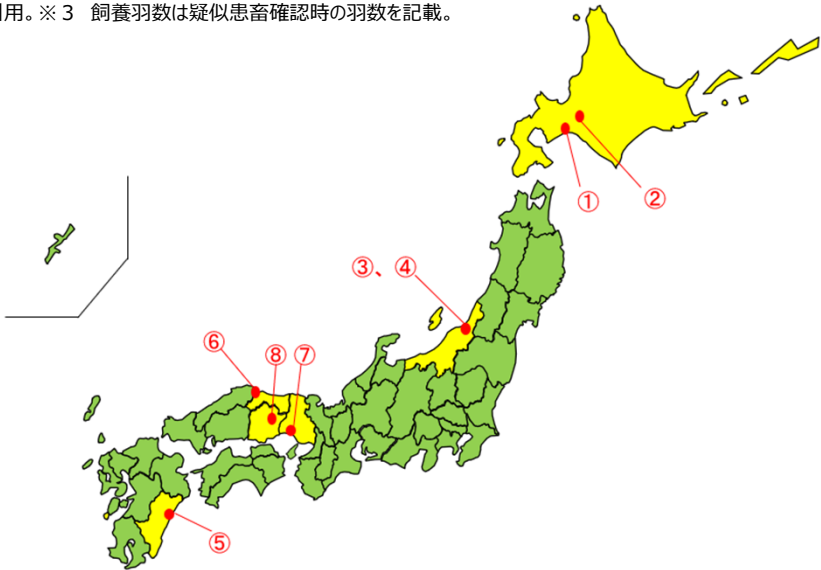
今シーズンの発生の状況

高病原性鳥インフルエンザの防疫措置の進捗状況

○ 令和 7 年シーズンは、これまでに 8 事例発生し、約240万羽が殺処分対象となった。（採卵鶏 6 事例、肉用鶏 2 事例）

発生場所			発生日 ※ 1	飼養羽数 ※ 2、3	農林水産省 対策本部	防疫措置（殺処分、消毒等）			
						防疫措置（殺処分、消毒等）		搬出制限区域 解除	移動制限区域 解除
						開始	完了		
①	北海道 1	養鶏場 （北海道白老町）	令和 7 年 10月22日	約45.9万羽 （採卵鶏・ケージ飼い）	10月22日	10月22日 8 時00分	11月 2 日 12時30分	11月14日 0 時00分	11月24日 0 時00分
②	北海道 2	養鶏場 （北海道恵庭市）	令和 7 年 11月 2 日	約23.6万羽 （採卵鶏・ケージ飼い）	11月 2 日	11月2日 13時00分	11月10日 16時00分	11月22日 0 時00分	12月 2 日 0 時00分
③	新潟 1	養鶏場 （新潟県胎内市）	令和 7 年 11月 4 日	約63万羽 （採卵鶏・ケージ飼い）	11月 4 日	11月4日 8時00分	11月18日 16時00分	11月30日 0 時00分	12月10日 0 時00分
④	新潟 2	養鶏場 （新潟県胎内市）	令和 7 年 11月 9 日	約28万羽 （採卵鶏・ケージ飼い）	11月 9 日	11月 9 日 8時00分	11月18日 16時00分	11月30日 0 時00分	12月10日 0 時00分
⑤	宮崎 1	養鶏場 （宮崎県日向市）	令和 7 年 11月22日	約4.8万羽 （肉用鶏・平飼い）	11月22日	11月22日 8時00分	11月23日 11時00分	12月 4 日 14時00分	12月15日 0 時00分
⑥	鳥取 1	養鶏場 （鳥取県米子市）	令和 7 年 12月2日	約7.5万羽 （肉用鶏・平飼い）	12月2日	12月2日 8時00分	12月 6 日 12時00分	12月17日 17時00分	—
⑦	兵庫 1	養鶏場 （兵庫県姫路市）	令和 7 年 12月16日	約24万羽 （採卵鶏・ケージ飼い）	12月16日	12月16日 8時00分	12月21日 20時00分	—	—
⑧	岡山 1	養鶏場 （岡山県津山市）	令和 7 年 12月20日	約43万羽 （採卵鶏・ケージ飼い）	12月20日	12月20日 9時00分	—	—	—

※ 1 疑似患畜と確認した日。 ※ 2 飼養方法は主として疫学調査結果から引用。 ※ 3 飼養羽数は疑似患畜確認時の羽数を記載。

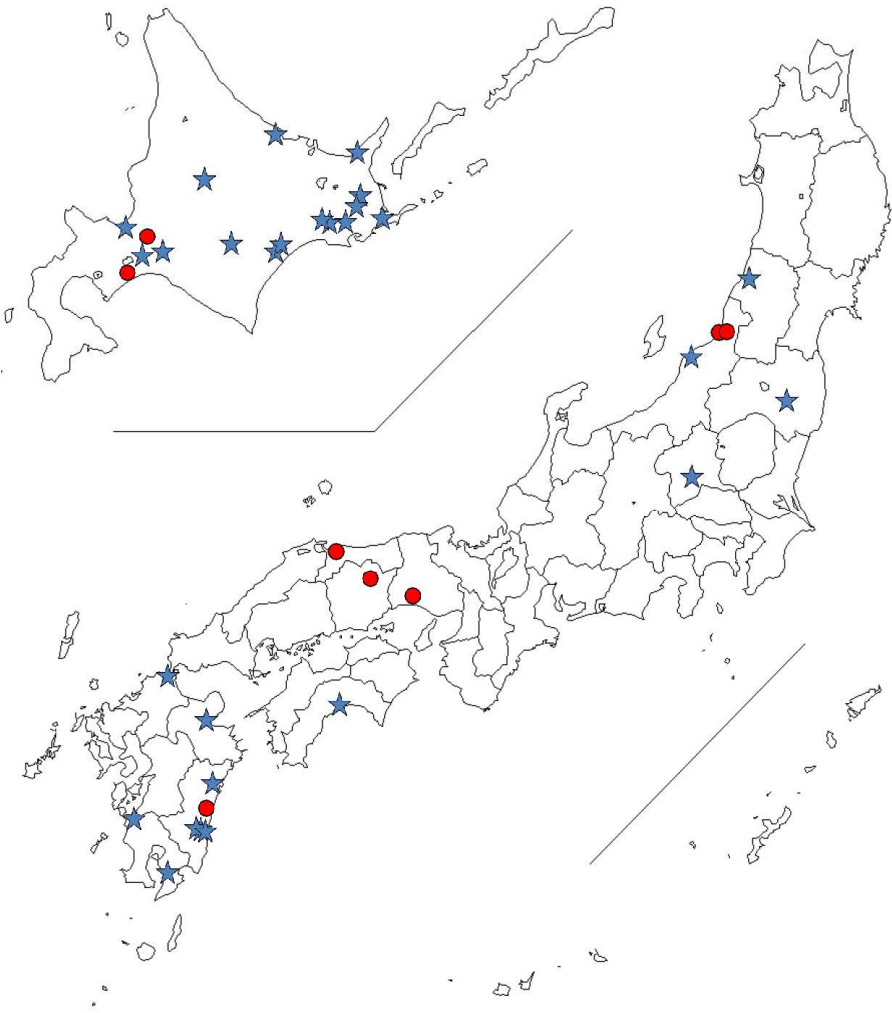


鳥インフルエンザの発生状況

- 令和6年シーズンは、14道県51事例で発生し、令和7年1月に発生が急増。
- 令和7年シーズンは、これまで北海道2例、新潟県2例、宮崎県1例、鳥取県1例、兵庫県1例、岡山県1例、合計8例の家さんの陽性事例を確認。

令和7年シーズンの発生状況

● 家さん
★ 野鳥・環境試料



過去シーズンとの比較

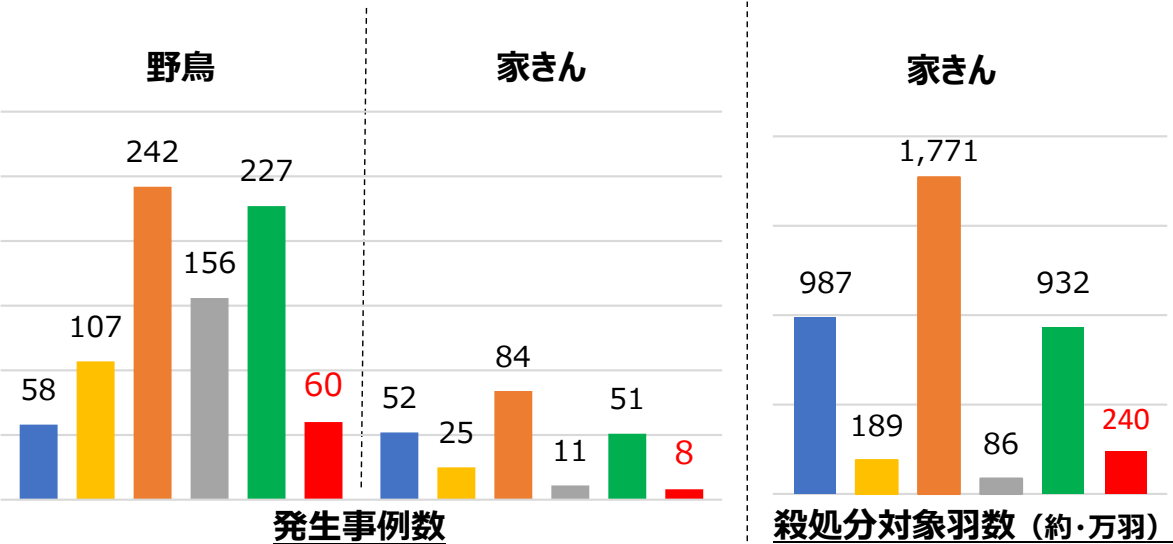
(1) 初発、最終確認日

		R2シーズン	R3シーズン	R4シーズン	R5シーズン	R6シーズン	R7シーズン
野鳥	初発	10月24日	11月8日	9月25日	10月4日	9月30日	10月15日
	最終確認	3月3日	5月14日	4月20日	4月30日	6月17日	
家さん	初発	11月5日	11月10日	10月28日	11月25日	10月17日	10月22日
	最終確認	3月13日	5月14日	4月7日	4月29日	2月1日	

(注) 野鳥の日付は回収日

(2) 発生事例数（野鳥、家さん）、殺処分対象羽数

■: R2シーズン ■: R3シーズン ■: R4シーズン ■: R5シーズン ■: R6シーズン ■: R7シーズン

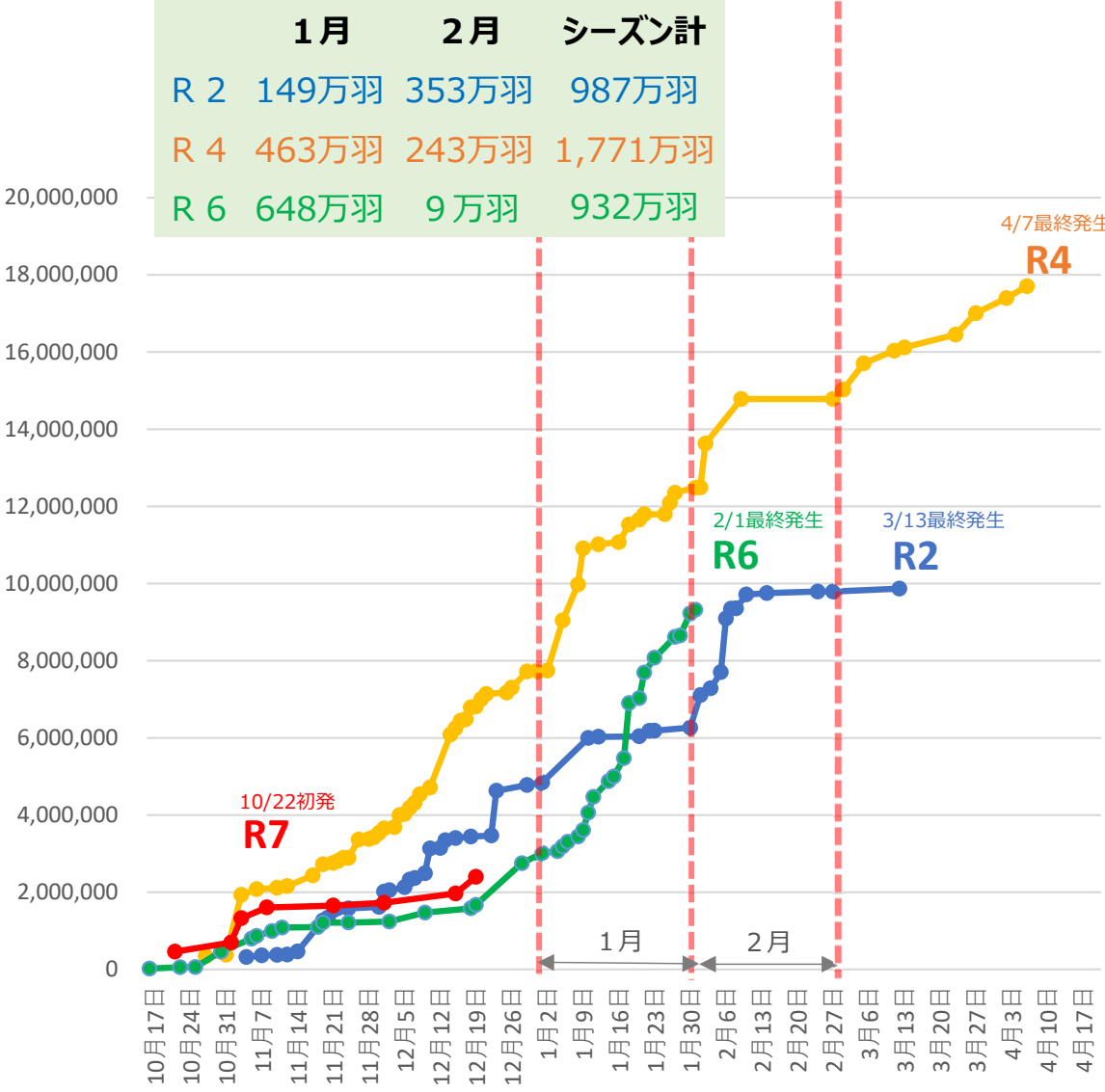


(注) 野鳥における発生事例数は環境省HP参照

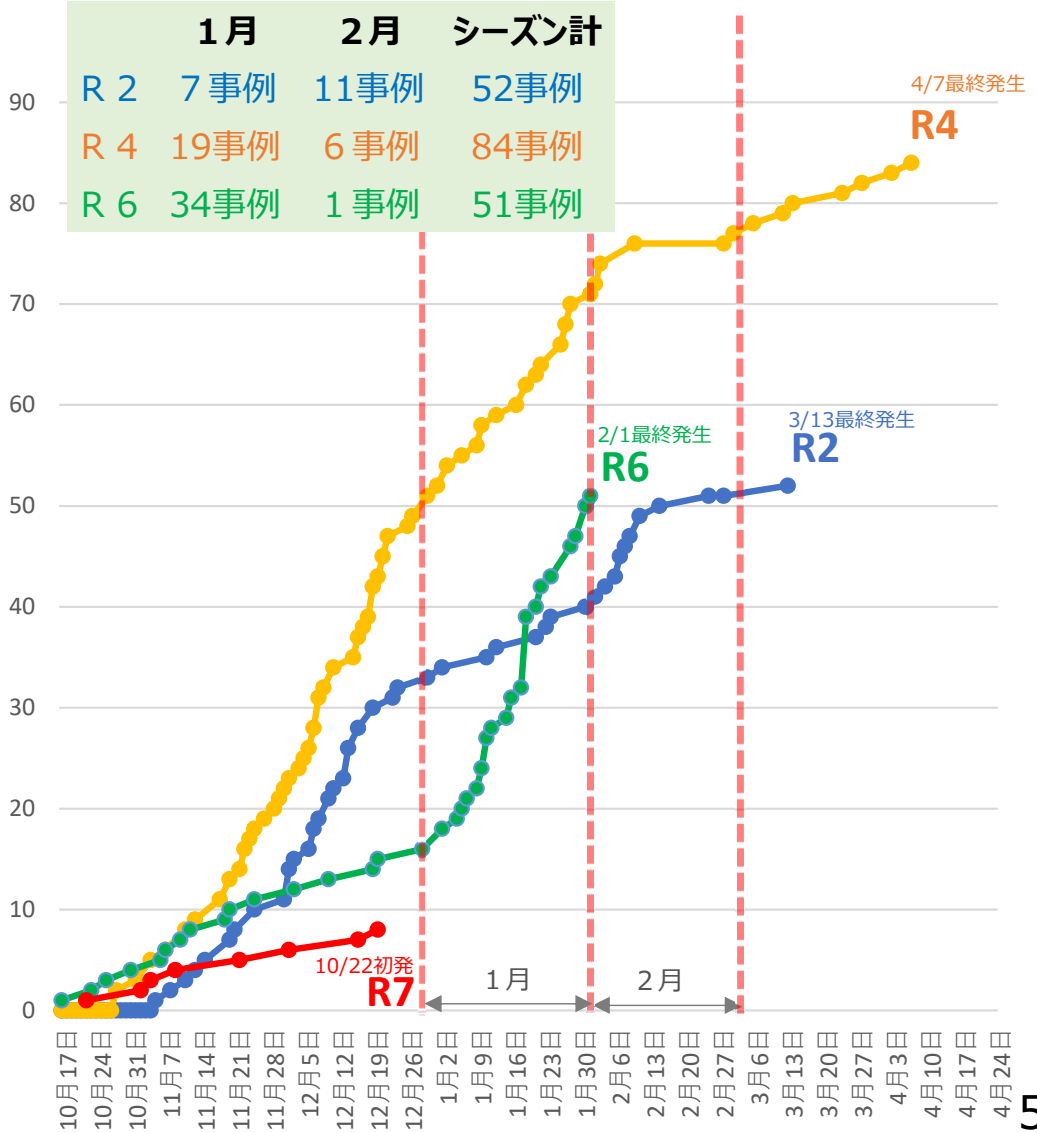
過去シーズンとの発生状況の比較

- 例年、1月がトップシーズンである中、令和6年シーズンは月間34事例発生・648万羽殺処分と、1月としては過去最多を記録。
- 令和7年シーズンにおける殺処分羽数は、12月1日時点で、令和6年シーズンと同規模。

殺処分羽数の推移



発生件数の推移



発生農場で認められた所見・特徴

発生農場で認められた所見・特徴：再発及び大規模

- これまでの発生農場のうち4例が既発農場における発生、6例が大規模農場での発生であった。
- ウインドウレス鶏舎での発生が多く見られた。

【再発及び大規模】

	農場概要	再発	大規模
1 例目 10月22日	・ 北海道白老町採卵鶏農場（約46万羽） ・ ウインドウレス、エイビアリー	○ R4.4.16に発生	○
2 例目 11月2日	・ 北海道恵庭市採卵鶏農場（約23.6万羽） ・ ウインドウレス、ケージ飼い		○
3 例目 11月4日	・ 新潟県胎内市採卵鶏農場（約63万羽） ・ ウインドウレス、ケージ飼い	○ R5.3.6に発生	○
4 例目 11月9日	・ 新潟県胎内市採卵鶏農場（約28万羽） ・ セミウインドウレス、ケージ飼い ・ 3例目農場の北約500 mに所在	○ R5.3.12、R6.11.6に発生	○
5 例目 11月22日	・ 宮崎県日向市肉用鶏農場（約4.8万羽） ・ 開放、平飼い	○ R4.12.21に発生	
6 例目 12月2日	・ 鳥取県米子市肉用鶏農場（約7.5万羽） ・ 開放、平飼い		
7 例目 12月16日	・ 兵庫県姫路市採卵鶏農場（約24万羽） ・ ウインドウレス、ケージ飼い		○
8 例目 12月20日	・ 岡山県津山市採卵鶏農場（約43万羽） ・ ウインドウレス、ケージ飼い		○

発生農場で認められた所見・特徴：衛生管理及び野鳥

- 衛生管理に大きな不備が認められなかった農場から、不備が認められる農場まで様々。
- 発生農場の周囲では、渡り鳥が飛来する水場、カラスが集まる森などがあつた。

【現地調査時に農場内で認められた事項】

衛生管理に大きな不備が認められなかった農場から、以下のような不備が認められた農場までさまざまであつた。

- ・ 大腸菌症等と判断し通報が遅れ、通報日には死亡羽数が700羽まで増大
- ・ 外来者の衣服・長靴交換、手指洗浄・消毒の不徹底
- ・ 堆肥舎や鶏糞積載場所内における小鳥の確認
- ・ 鶏舎壁、防鳥用金網の破損
- ・ 鶏舎裏口からの入場時の手指洗浄・消毒の不徹底
- ・ 衛生管理区域内に野鳥の古巣がある樹木が植生

【農場周辺環境】

野鳥等が周辺に生息・飛来していることを確認。

- ・ 農場に隣接する森にカラスのねぐら
- ・ 農場周囲の水田にコハクチョウが飛来
- ・ 農場から110mの池でマガモ等約120羽を確認

今後の発生予防対策（家きん小委・HPAI疫学調査チーム検討会合同会合での提言）

今後の発生予防対策（家きん小委・HPAI疫学調査チーム検討会合同会合での提言）

- 12月19日、家きん疾病小委・HPAI疫学調査チーム検討会合同会合で発生予防対策に関する提言を取りまとめ。
- 早期発見・早期通報、飼養衛生管理の徹底、野鳥対策、既発地域・家きん農場集中地域での対策が重要。

・ 早期発見・早期通報

- ✓ **発見及び通報の遅れはウイルス量の増大につながり、まん延のリスク。**特に集中地域では重要。
- ✓ **少なくとも1月末までは細心の注意をもって健康観察を行うこと。大腸菌症経験農場や誘導換羽中**であっても、異状があればこれらによるものと即断せず早期通報。

・ 飼養衛生管理の徹底

- ✓ 飼養衛生管理基準の徹底は、侵入リスク低減の基本。特定の項目に偏らず、全項目を継続的に遵守。
- ✓ 発生リスクが高いとの報告がある**大規模農場で多く発生。より一層の警戒感を持ち衛生管理を行う**ことが重要。また、来年10月の塵埃対策義務化について、前倒しの実施が望ましい。

・ 野鳥対策

- ✓ 野鳥は本病を農場内に持込む主因の一つ。野鳥を誘引しないことが発生予防上重要。
- ✓ 防鳥ネットの適切な設置、**死鳥・廃棄卵の適切な処理、樹木の除去・枝払い、餌こぼれの清掃や**テグスの設置等が重要。

・ 過去に発生があった地域や家きん農場集中地域での対策

- ✓ **既発地域**は気象条件、地形、野生動物生息状況等**発生する環境要因が揃っており、発生リスクが**高いことから、**過去の発生時期を踏まえ、一層飼養衛生管理の徹底に取り組む**ことが重要。
- ✓ 来年1月に施行される**大臣指定地域**に所在する農場は、**前倒しで野鳥対策、消毒薬備蓄等に取り組む**ことが重要。

本日、今一度お願いしたいこと

1 早期通報の徹底

ちょっとでも怪しいと思ったら、即通報を。

2 年末年始に向けた万全な準備

年末年始の発生がこの数年連続。資材・輸送業者を含め連絡体制の確保を。

3 リスクの高まる1月に向け、緊張感を持った対応

昨シーズンは1月に34事例が発生。より一層の警戒を。